

COP等の世界の動向に関する事業 – 国際会議の動向を県民へ発信！



COP15本会議の様子（2009）

COP21では全ての国が参加する2020年以降の枠組みとしてパリ協定が採択されました。またCOP25ではパリ協定の詳細なルールが議論され、地球温暖化問題は世界規模で取り組むべき喫緊の課題としてますます関心が高まっています。国際会議の現場の雰囲気や他国にあるNGOの取り組みなどの情報をいち早く入手して発信し、宮城県民がタイムリーな情報を手に入れることができる機会を提供するため、COP等の世界の動向に関するプレイベントや現地派遣、報告会を実施しています。

	本事業に関連する国際会議と気候変動枠組交渉の経緯(※)	センターの動き
1992	国連気候変動枠組条約（UNFCCC）採択（1994年発効） （締約国数：197カ国・機関）	
1997	COP3（日本・京都） 京都議定書採択（2005年発効）（締約国数：192カ国・機関）	
2001	COP6再開会合（ドイツ・ボン） 京都議定書内容合意	<ul style="list-style-type: none"> プレイベント 派遣（ドイツ） 報告会
2002	持続可能な開発に関する世界首脳会議（南アフリカ・ヨハネスブルグ）	<ul style="list-style-type: none"> プレイベント 派遣（南アフリカ） 報告会
2004	自然エネルギー国際会議（ドイツ・ボン）	<ul style="list-style-type: none"> 派遣（ドイツ） 報告会
2009	COP15（デンマーク・コペンハーゲン） コペンハーゲン合意→先進国・途上国の2020年までの削減目標・行動をリスト化すること等に留意	<ul style="list-style-type: none"> 派遣（デンマーク） 報告会
2010	COP16（メキシコ・カンクン） カンクン合意→各国が提出した削減目標等が国連文書に整理されることに	<ul style="list-style-type: none"> 派遣（メキシコ） 報告会（3.11により中止）
2011	COP17（南アフリカ・ダーバン） ダーバン合意→全ての国が参加する新たな枠組み構築に向けた作業部会（ADP）が設置	<ul style="list-style-type: none"> 派遣（南アフリカ） 報告会
2012	COP18（カタール・ドーハ）	<ul style="list-style-type: none"> プレイベント 報告会
2013	COP19（ポーランド・ワルシャワ） ワルシャワ決定→2020年以降の削減目標（自国が決定する貢献案）の提出時期等が定められる	<ul style="list-style-type: none"> プレイベント 報告会
2014	COP20（ペルー・リマ） 気候行動のためのリマ声明→自国が決定する貢献案を提出する際に示す情報（事前情報）、新たな枠組の交渉テキストの要素案等が定められる	<ul style="list-style-type: none"> 報告会
2015	COP21（フランス・パリ） パリ協定採択→2020年以降の枠組みとして、史上初めて全ての国が参加する制度の構築に合意	<ul style="list-style-type: none"> プレイベント 報告会
2016	COP22（モロッコ・マラケシュ）	<ul style="list-style-type: none"> 報告会
2017	COP23（ドイツ・ボン）	<ul style="list-style-type: none"> 報告会
2018	COP24（ポーランド・カトヴィツェ）	<ul style="list-style-type: none"> 報告会
2019	COP25（スペイン・マドリード）	<ul style="list-style-type: none"> 報告会

(※気候変動枠組交渉の経緯は、外務省「わかる！国際情勢」参照)

COP16代表派遣オブザーバー参加の思い出



ストップ温暖化センターみやぎ 副運営委員長 阿部育子

私は2010年12月にCOP16代表派遣としてカンクン市(メキシコ国)で開催の国際会議にオブザーバーとして参加しました。

当時私はストップ温暖化センターセンターみやぎ副センター長であり、その年、ちょうど仙台市の市民センター館長職を退いたばかりでした。

1人で現地へ行く不安もありましたが、およそ2週間の出張日程の調整が必要となれば現役の方だとなかなかむずかしいらしく要請をお引き受けすることにしました。デジカメやパソコンを用意し、現地からウェブレポートを行うという大役をいただき恐れ多くもチャレンジの機会をいただきました。

ちょうど10年前、スマホもiPadもない時代です。通信事情も現代のようにはいかず昼間取材した記事をホテルから送信するには、だいぶ苦労しました。英語表記はなく、スペイン語がわからない私はパソコンルームが使えないし、数も限られています。それでホテルでは、自室で原稿を書きため翌日、会議場の通信できる部屋から日本へ送信していました。送信数が多く、写真を入れると容量も大きくなるらしく、通信を制限するようなことも起こり、送信できなかった原稿もあります。また会議場で参加者が一斉に送信するような時にも、通信スピードのトラブルが起きました。

メキシコ・カンクンへの旅は、旅慣れているつもりのもちよと遠く感じます。

成田からヒューストン経由でカンクンへ、アメリカへ入国し直ぐにメキシコへ出国するという、慌ただしさ。おまけに搭乗口が変更になり、あの世界でも有数の広さのヒューストン空港をダッシュで駆け回る羽目になり、体力も相当使いました。仙台を出てから目的地に着くまでの時間は、およそ24、5時間くらいかかりました。

カンクン市はユカタン半島の突端にある世界でも有数のリゾート地です。カリブ海とラグーンに挟まれたおよそ20Kmの長い洲にホテルが林立しています。COP16の多くの参加者が宿泊しているホテル街から会議場まではシャトルバスが出ています。この期間中は24時間運行しているので助かりました。

実は、会場が二つに分かれています。一つはイベント会場のカンクンメッセと、もう一つは会議場となるムーンパレスです。どちらに行くにしても最初にカンクンメッセでセキュリティを通過しなければならず、そこから8キロ離れたムーンパレスに行くシャトルバスに乗るということで二つの会場を行き来するには、ちょっと不便に感じました。

ホテルを朝に出発してシャトルバスで会場へ着き、セキュリティチェックを通過して、あちらこちら歩き回り、時には日本へのレポート送信のために通信できるコーナーで順番待ちをしたりして、毎日、長い時間会場にいました。

特にカンクン合意が出るかもしれないという時には、午後8時頃？10時ころ？と待ち続け、とうとう12時になったことも。後で知ったところでは、翌朝午前4時にカンクン合意が出たそうです。

あれからちょうど10年目、大変な時代です。大変というのは、大きく変わると書きます。

新型コロナウイルスの影響も加わり、世の中の変化はあちらこちらで感じます。秋の味覚、サンマの季節、海水温が高くサンマが沿岸から離れ、庶民の魚が今や高級魚になっています。私たちに今、できる事は何でしょうか？改めて考えていかなければなりません。

もし、関心がおありでしたら下記のURL に掲載されているCOP16WEBレポートもごらんください。

MELONウェブサイト:https://www.melon.or.jp/contents/Global_Warming/rupo/COP16.html

JCCCAウェブサイト：https://www.jccca.org/trend_world/conference_report/cop16/